

山口市秋穂・四辻と 防府市の旧石器

2021

防府考古学研究会

目次

はじめに

凡例

原ノ前遺跡・仁光寺遺跡	1
長浜遺跡・幸田西遺跡・天田遺跡	2～6
美濃ヶ浜遺跡・幸田東遺跡	7～10
中道遺跡・筈倉遺跡 2 地点	11～13
小浜遺跡 1 地点	14～15
青江遺跡	16～17
山田遺跡・東禅寺黒山遺跡	18
河原遺跡	19
尾口山遺跡・長沢池遺跡 C 地区	20
長沢池遺跡 D 地区・その他・地点不明	21～23
宮ノ前遺跡・木床遺跡	24～28
柴山裏遺跡	29～31
上り熊遺跡・姫山遺跡	32
湯ノ峠下遺跡・丸山遺跡	33
和田遺跡	34

終わりに

はじめに

石器の写真に思う part2

この度は、写真に力を入れました。特に色の修整と大きさ合わせです。写真は、カメラの撮影も大事ですが色の修整でかなり石器の色に近づけることができます。水晶の写真は、上手く撮れなく困っていましたが、黒背景で撮ることでかなり良くなりました。黒は、どんな黒でも良いと言うことではなくパソコンで撮った真っ黒が良いです。カメラで見ればわかりますが、白く反射する黒は良くありません。黒もいろいろな黒があるということです。光が入り過ぎるとハレーションを起こしたりするので、影にしたりカメラの明るさをマイナスにして撮影します。細石刃などは、稜線をはっきり出したいので影にしていた箱を少し上げて反射させます。反射は、強すぎても弱すぎてもダメで見極めが大事です。写真が撮れたらパソコンに取り込み背景を削除します。一番大事なのが色の調整です。彩度とトーンを下げることで白く透明な水晶になります。煙水晶は、少し黄や灰色が入っていますので彩度やトーンを少し上げます。トーンに比べ彩度の方が良く効きます。それを上手く調整して使います。最後に黒背景の上に載せて完成です。水晶は、かなりレベルが上がりましたが、黒曜石の黒と赤間石やチャートの赤は、なかなか色が出なくて困っています。色の濃度は、自動でやっているのでマニュアルで濃度を上げれば少しは良くなります。黒曜石ばかりのページなら使えますが色々あると使えません。そうすると、スキャナーで取り込み使うことになりますので大変な手間がかかります。

良い写真が撮りたい気持ちと、そこから解放されたい気持ちが重なり合っています。まだ、旧石器の写真は終わっていませんので、やるしかありません。来年には、旧石器の写真を終わらせたい気持ちで一杯です。

凡例

- 1、実測図を入れている遺物があります。実測図は、昭和 43 年当時に、長沢考古研究グループの会員が鉄筆（ガリ版）で書いたものなので、原図に比べて良くありません。鉄筆でない実測図の場合は、書かれた人の氏名を記入しています。
- 2、写真は、実物大を基本としています。パソコンの画面では、大きさを合わせていますが印刷をすると少し大きくなる傾向があります。大きな石器ほど、誤差が大きくなります。この度は、大きさと色は調整しましたので、かなり近いものになっていると思います。色は、石器の色に近づけていますが、完全に近づけると異様な感じになりますので、見やすい程度で止めています。石器は、思ったより色が濃いです。
- 4、ページが変わると、どこの遺跡かわからなくなることがあるので「ナイフ KOBAMA」とページの右端に入れています。ナイフ形石器・小浜遺跡を意味しています。石器の数がわかるように石器に番号も入れています。

原ノ前遺跡 緯度経度 34.041071 131.418038

本遺跡は、山口市秋穂二島大里に所在する。朝日山（標高 80m）の北方に広がる洪積台地で、周防大橋の北東 2.4 km に位置する。二島小学校の北方 500m で遺跡の側を県道 61 号線が通る。原の前バス停を目標にして、ガソリンスタンドの側の台地である。西方の南若川の河口に向かって延びる舌状台地の先端部にあり、標高は 15m である。遺物は、安山岩製のナイフ形石器が 1 点である。

①ナイフ形石器

5.0×2.3×0.9 10.0 g

安山岩

横剥ぎ剥片を素材とした一側縁加工のナイフ形石器である。

調整剥離は、左側縁先端から順次行われている。厚みのある先端部は大きな剥離で、薄くなると小さな剥離の加工に変わる。本地域のナイフ形石器では、大きい方である。



仁光寺遺跡 緯度経度 34.046812 131.434749

本遺跡は、山口市秋穂西仁光寺に所在する。大海山の西にある勘十郎岳（標高 246m）の西方山麓の洪積台地で、四辻駅の南方 3.9 km に位置する。宮ノ旦の正八幡宮の北方 1.3 km にあり、遺跡の側を仁光寺から秋穂中学校に抜ける市道が通る。西方の長沢川に向かって延びる舌状台地の先端部にあり、標高は 20m である。旧石器時代の遺物の他に石鏃が発見されている。

ナイフ NINNKOUJI

①ナイフ形石器

2.5×1.5×0.6 2.7 g

安山岩

反りのある剥片を利用している。

先端部は、欠損している。基部は、尖る。

右側縁上部は、加工がないので刃部と

思われる。左側縁は、現状すべて加工があるが、

厚みが極めて薄くなっているため加工が続くものかわかりません、風化が進んでいる。



細石刃屑 NINNKOUJI

①細石刃屑

1.7×0.9×0.3 0.4 g

細石刃であるか微妙である。正面右の剥離方向が裏面とは違うように思われる。細石核の剥離には、様々な細石刃屑が出来るのでその様な物と考えられる。



長浜遺跡 緯度経度 34.012076 131.408967

本遺跡は、山口市秋穂二島長浜に所在する。岩屋山 102mの北方山麓にある洪積台地で、周防大橋の南東 2.7 km に位置する。水産研究センターの手前で、聖鏡院の近くにある台地である。北方の黒瀉方面に向かって延びる舌状台地の先端部にあり、標高は 15～20m である。旧石器時代の遺物の他に石鏃 14 点・石斧 1 点・スクレーパー 1 点・ミニ三角スクレーパー 1 点・滑石製模造品 1 点（盾菱形）などが発見されている。

角錐状石器 NAGAHAMA

①角錐状石器

7.0×2.2×1.5 19.1 g

安山岩

縦長剥片を素材としている。

二面加工の大型角錐状石器である。

最先端は、新しい割れである。

稜上部の先端（原石面）から末端にかけて、素材面を残している。

調整剥離は、大きな剥離で整形した後に細かな剥離で縁辺を調整加工して仕上げている。

稜上からの剥離はない。

二面加工の角錐状石器では、本地域最大級である。



ナイフ NAGAHAMA

①ナイフ形石器

6.1×2.6×1.2 16.8 g

ガラス質安山岩

右側縁には、目立つ大きな三つの調整剥離がある。剥離は、順次行われたものではなく、二つの連続剥離の間を平滑にするかのように、三つめの剥離が行われている。

左側縁の上半が刃部で、先端部は新しい割れである。左側縁の下半部は、打面側の素材面で基部の大きな剥離も素材面と思われます。左側縁の打面の垂直素材面を利用することで、加工を省略していると思われます。



②ナイフ形石器

1.7×1.5×0.3 1.2 g

チャート

縦割ぎ剥片を素材としている。先端部と基部の割れは、新しい。

調整剥離は、丁寧である。主な加工は左側縁にあり、右側縁下部に一つ剥離が認められる。

右側縁上部が刃部であるが、刃部の角度が 80 度位あります。全体像が全く見えない石器ですが、正面にある上から斜めの剥離が刃部の厚みを減少させて刃部を作り出している可能性があります。

石材は、半透明の部分がある良質のチャートです。



ナイフ NAGAHAMA

③ナイフ形石器

2.4×0.9×0.5 0.9 g

水晶

正面と裏面の剥離方向が同じ、縦剥ぎ剥片を素材としている、
右側縁と左側縁の先端に原石面がある。
右側縁の先端部に調整剥離のある部分加工の小型ナイフ形石器である。



縮尺率 150%

不明石器 NAGAHAMA

①使用痕のある剥片

2.2×4.4×0.8 7.2 g

安山岩

上端は、原石面である。
正面の下方の縁辺に使用痕のような小さな剥離が認められる。



②不明石器

3.6×1.8×1.0 6.0 g

安山岩

何度調整剥離を見ても、石器の形にならない。
同じ所を、繰り返し見ているので進展がないのである。
視点を变えて、他を見ると先端からの大きな剥離が彫器に見えた。槌状剥離が短くて良いのかわかりませんが、彫器として使える可能性があると思われます。



剥片 NAGAHAMA

①剥片

6.2×2.6×0.8 15.7 g

安山岩

縦長剥片である。
ナイフ形石器や剥片尖頭器の素材剥片である。



②剥片

9.0×2.7×0.8 17.7 g

頁岩

細幅の縦長剥片である。

風化が進んでいる。



③剥片

4.0×2.6×0.9 8.0 g

泥質頁岩

縦長剥片である。

正面右半分によく原石面を残している。

石材の表面に光沢や滑らかさがない。

風化が進んでないように見える。



④剥片

5.9×3.4×1.1 43.8 g

ガラス質安山岩

広幅の縦長剥片である。

正面右下半から左側縁末端にかけて、

広く原石面を残している。

風化は、著しい。



剥片 NAGAHAMA

⑤剥片

4.1×3.6×1.0 17.0 g

珪化木

初めは、先入観と思い込みでチャートと思ったが、
良く見ると一部がメノウ化した珪化木である。
今までチャートと思っていた中に、かなり珪化木
が含まれているに違いない。半透明のものがあったても
簡単に玉髄・メノウの判定はしない方が良い。
残念なことに、物の考え方が50年前と余り変わっていないのである。
縦剥ぎ剥片である。打面と右半分と末端に原石面を残している。
左側縁に加工があるので、スクレパーの可能性が高い。



石核 NAGAHAMA

①石核

3.6×4.3×1.9 26.8 g

頁岩



打面調整のある剥片石核である。
最後の剥離は、正面左半分である。
裏面に原石面（角礫）を残している。

細石刃 NAGAHAMA



①細石刃

1.3×0.7×0.2 0.3 g

黒曜石



②細石刃

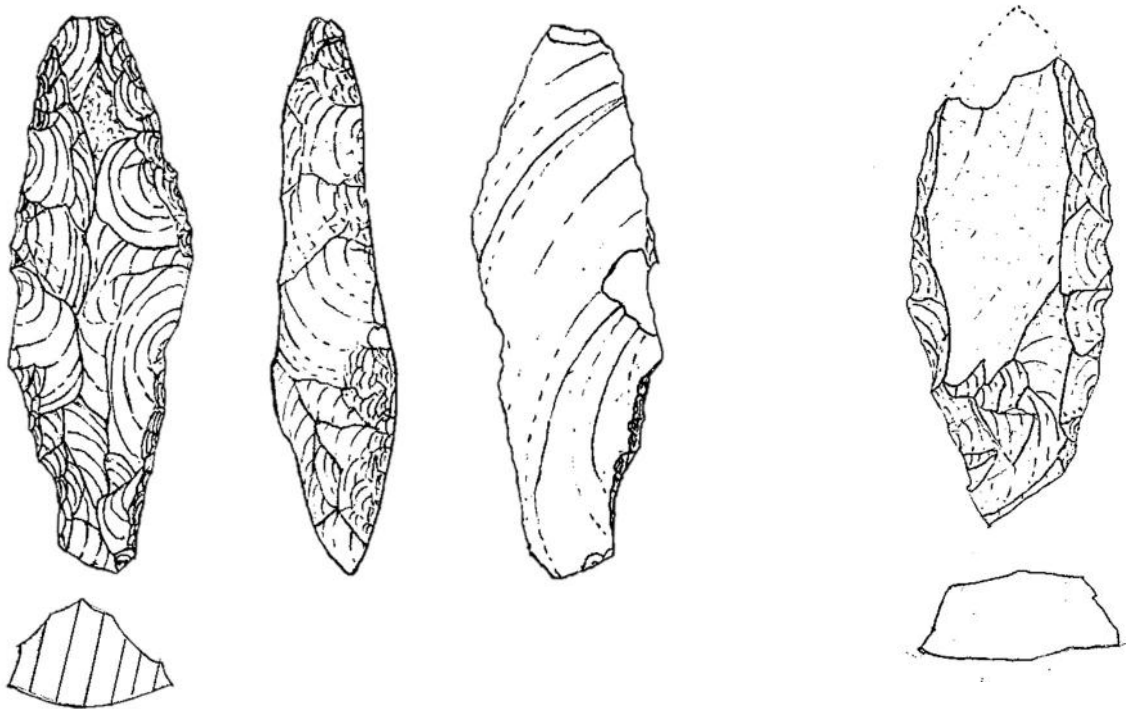
1.4×0.8×0.2 0.3g

黒曜石

【その他】細石核と大型のスクレーパーが各 1 点採集されている。細石核は、黒色黒曜石製の完形品で断面が楕円形の半円錐形を呈する。打面は、急角度で打面調整はない。細石刃の剥離は裏面まで及び、わずかに原石面を残している。一見すると、円錐形細石核と見間違えるほどである。均整のとれた細石核で、剥離の大きさ形も理想的である。黒曜石製の細石核では、本地域最大級のものと思われる。

大型のスクレーパーは安山岩製の完形品で半月形を呈する。片面調整のものであるが、旧石器時代のものかは不明である。この 2 点は、長沢考古研究グループ時代に中原浩君が採集されたものであるが遺物が現存するかは不明である。

実測図 NAGAHAMA



角錐状石器① ナイフ形石器①の実測図 三浦保人

幸田西遺跡 緯度経度 34.039833 131.435693

本遺跡は、山口市秋穂西幸田に所在する。大海山の西にある勘十郎岳（標高 246m）の南西山麓の洪積台地で、四辻駅の南方 4.6 km 幸田東の南方 200m に位置する。宮ノ旦集落のすぐ北側にある台地で、遺跡の中央を仁光寺から秋穂中学校に抜ける市道が通る。西方の長沢川に向かって延びる舌状台地の先端部にあり、標高は 15m である。遺物はチャート製の大きな縦長剥片が 1 点発見されている。

天田遺跡 緯度経度 34.027238 131.443556

本遺跡は、山口市秋穂西東天田に所在する。経納山（きょうのう標高 145m）の北西山麓の洪積台地で、周防大橋の東方 4.6 km に位置する。秋穂八十八ヶ所霊場のひとつ福楽寺のある東天田集落と東の長尾池の間にある台地で、長尾池は大海埤を越えたあたりにある。遺跡の北方 600m を県道 338 号線が通っている。北方の天田川に向かって延びる舌状台地の先端部にあり、標高は 20m である。遺物は細石刃が 1 点と石鏃が 1 点発見されている。

美濃ヶ浜遺跡 緯度経度①33.996253 131.402186 ②33.996673 131.408621

本遺跡は、山口市秋穂二島田ノ尻に所在する。兜山と揺木山の南方山麓にある洪積台地と砂堆で、周防大橋の南方4kmに位置する。美濃ヶ浜のある岩屋山は、黒瀉と長浜を境に離れた島である。兜山は、大内輝弘の落人伝説で知られ細声谷の地名も残る。旧石器時代の遺物の多くは、7地区の砂置き場①の地点で発見された。現在のヨット施設と山口秋穂園の間にあった。昭和43年当時は、砂堆の砂の採取が行われており幾つもの砂山があった。その砂山で発見したもので、ナイフ形石器や石鏃があった。石器は、かなり摩滅しており、長い間遺物が露出して波浪と石英砂にもまれたものと思われる。砂堆は標高5m位なので縄文海進の影響があったことが考えられる。石器のある砂山は、砂粒が荒く場所は大体決っていた。砂が荒く見えるのは長い間移動されず放置されていたからと思われる。6地区の延長上の場所なので石鏃があっても不思議はない。砂粒が荒いことは、6地区や大道の繁枝砂丘遺跡でも認められる。それは、第2次散布で波浪の影響を受け細かな砂と荒い砂・石器に分かれ、荒い砂は石器の摩滅を速めたと思われる。7地区の遺物は、第2次散布した遺物が人為的に移動され散布したもので、第3次散布とも言えるものである。揺木山の南方山麓②の地点の道端で安山岩製のナイフ形石器を1点発見している。前は、数メートルの崖面で岩礁が200m位先まで続いている。元々は、山麓が岩礁方向に延びていたものと思われる。ナイフ形石器を発見した所は、緩やかな斜面で古墳時代の箱式石棺もある丘陵である。その他、海岸で安山岩製の角錐状石器と推定されるものが1点と円盤状石核が1点発見されている。円盤状石核は、幸崎遺跡1地区の海岸で発見された黒曜石製のものに形や大きさが良く似ている。石材は、黒色で風化が著しく良くはわかりませんが玄武岩かもしれない。旧石器時代の遺物の他、縄文・古墳・中世の多期に渡り多くの遺物が発見されている。

ナイフ MINOGAHAMA

①ナイフ形石器

3.2×2.3×0.6 2.1g

安山岩

先端部の欠損は、古いものである。

刃部は、わずか欠損している。

調整剥離は、右側縁に比べて左側縁は粗い。

切り出し型ナイフ形石器である。



②ナイフ形石器

2.9×1.4×0.8 3.7g

安山岩

裏面のたわみ方を見ると、横剥ぎ剥片を素材としている。

先端部は、わずか欠損していると思われる。

加工は、先端部と末端部を除き全周に認められる。

はっきりとした刃部は認められないので、先端部のあり方

次第で周辺加工の尖頭器の可能性もある。

非常に摩滅している。



③ナイフ形石器

2.5×1.0×0.5 1.4 g

安山岩

小型の二側縁加工のナイフ形石器で、調整剥離は丁寧である。刃部には、使用痕がある。摩滅している。



④ナイフ形石器

1.9×1.0×0.3 0.6 g

チャート

小型の二側縁加工のナイフ形石器で、調整剥離は細かく丁寧である。刃部には、使用痕がある。先端部の割れは古いもので、わずか欠損しているのではないかと思われる。摩滅している。



⑤ナイフ形石器?

2.3×1.4×0.6 1.8 g

安山岩

形は、ナイフ形石器に似ているが刃潰し加工が余りにも少ない。かなり摩滅している。



①スクレパー

4.9×2.2×1.0 10.5 g

安山岩

非常に摩滅している。右側面に原石面が残る。調整剥離が裏面にあるのは珍しい。



①彫器？

4.3×3.5×1.1 15.7 g

頁岩

縦剥ぎ剥片を素材としている。

右側縁末端部にギザギザ状の粗い剥離がある。最先端の剥離を切って、
槌状剥離状の剥離が認められる。



①剥片

5.3×2.5×0.9 10.6 g

安山岩

非常に摩滅している。

縦剥ぎ剥片で、裏面にはバルバースカーが薄っすらと残る。正面の左半分に原石面がある。正面縁辺の剥離は大雑把で、先端部と末端部には加工はない。



②剥片

6.5×3.8×1.2 30.0 g

安山岩

縦長剥片で正面右半分に円礫の原石面を残している。

裏面に大きなバルバースカーが残る。



①角錐状石器

9.1×2.6×1.3

安山岩

高橋慎二遺物集成に実測図が残っていたので、掲載することにした。遺物は、長沢考古研究グループの会員が採集されたものです。

現存するかは、わかりません。

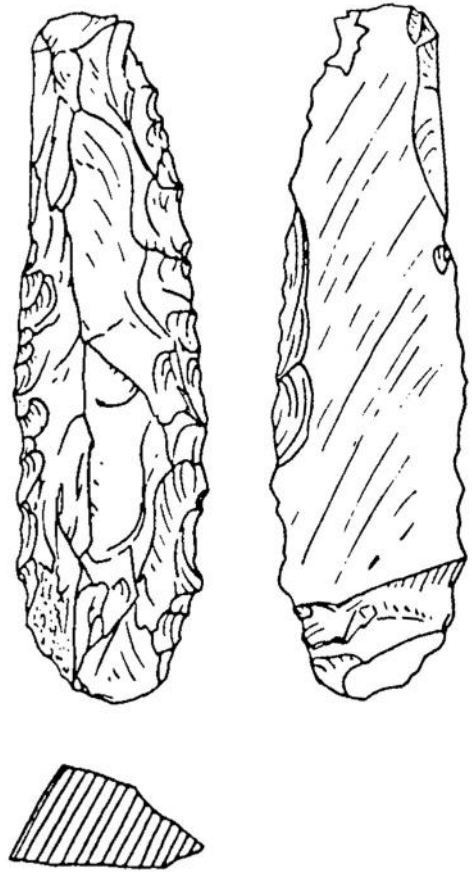
私の記憶では、左側縁が刃潰し加工で右側縁がスクレパーのような加工であったと思います。

それは、断面を見れば一目瞭然です。

先端部がないので欠損していると思われます。

先端がどちらにあったのか正確にはわかりませんが、裏面末端部の欠損と調整剥離の方向から、太い末端部が先端と推測されます。本地域の角錐状石器では、最大級です。

これと似た石器は、南方遺跡でも発見されています。



実測図 高橋慎二

幸田東遺跡 緯度経度 34.042758 131.437131

本遺跡は、山口市秋徳西幸田に所在する。大海山の西にある勘十郎岳（標高 246m）の南西山麓の洪積台地で、四辻駅の南方 4.4 km 仁光寺遺跡の南方 500m に位置する。外屋池（ほかやいけ）の側にある千防川砂防公園の西方 1 km にある。西方の長沢川に向かって延びる台地の先端部にあり、標高は 15m である。旧石器時代の遺物の他に、石鏃が 4 点発見されている。

ナイフ KOUDAHIGASI

①ナイフ形石器

1.6×0.9×0.4 0.6 g

黒曜石

先端部は、欠損している。右側縁の調整剥離は、細かく丁寧である。その先に刃部があったと思われる。

左側縁の加工は大きな剥離で、正面からのものと裏面からのものがある。刃潰し加工とは思えない。



中道遺跡 緯度経度 33.999847 131.448014

本遺跡は、山口市秋穂東中道に所在する。秋穂荘のある串山連峰（善城寺山 117m行者嶽 152m）と東方の赤石山 129mの間に広がる洪積台地で、中道海水浴場の北方 500mに位置する。中道公民館の北東 300mにある台地で、遺跡の西方 150mを県道 25 号線が通る。遺跡は、旧青江湾に向かって北方に延びる舌状台地の先端部にあり、標高は 10mである。遺物が発見される畑地は、赤土と細かな砂の所があり中道海水浴場に近くなるほど砂の影響が大きい。旧石器の遺物の他に石鏃が発見されている。

中道湾は、西の串山連峰・草山と東の赤石山がその間に広がる洪積台地を囲うように半島状に飛び出し馬蹄形をなしている。海岸線は、きれいなアーチ状の砂浜が広がる。

旧青江湾は、東の日地山 128mと北の経納山と西の善城寺山とその南にある赤石山の北面からなる。湾の入り口にあたる日地山と赤石山の間に堤防があり、一部海水が流入している所があるが、その多くは干拓地である。湾の入り口は狭く、湾内は楕円形なして広く穏やかな内海であったと思われる。

ナイフ CYUUDOU

①ナイフ形石器

2.8×1.2×0.6 1.8 g

安山岩

縦長剥片を素材とした、

小型の部分加工のナイフ形石器である。

左側縁の先端部に調整剥離がある。

最先端の割れは古いものである。



②ナイフ形石器

2.4×0.9×0.6 1.5 g

安山岩

小型の二側縁加工のナイフ形石器である。

調整剥離は、粗い。

最先端の欠損は新しい割れで、もう少し

長かったものである。



③ナイフ形石器

3.9×2.1×0.6 5.4 g

安山岩

ナイフ形石器かわかり難いものである。

ナイフ形石器の意見が多い。



④ナイフ形石器

1.8×1.1×0.5 1.0 g

安山岩

小型の一側縁加工のナイフ形石器である。

調整剥離は、ギザギザで粗い。



⑤ナイフ形石器

1.8×1.3×0.5 1.1 g

ガラス質安山岩

小型の切り出し型ナイフ形石器で、先端部は欠損

している。調整剥離は、丁寧である。



⑥上記以外にもガラス質安山岩製の小型のナイフ形石器が1点採集されています。

これより、下記はナイフ形石器か良くわからないものである。

①ナイフ形石器?

3.0×1.2×0.8 2.2 g

ガラス質安山岩

見かけは、ナイフ形石器に似ているが
刃潰し加工と思われるものは存在しない。



②ナイフ形石器?

3.0×1.6×0.5 1.6 g

安山岩か玄武岩

左側縁の基部に、加工らしきものがあるが
石核から剥片を剥離する時にできた可能性がある。



③ナイフ形石器?

2.4×1.3×0.4 1.3 g

珪化木

左側縁と右先端部に細かな押圧剥離がある。

裏面には加工がない。

石鏃の未製品か、石鏃でも良いと思われる。



④ナイフ形石器?

3.1×1.2×0.5 1.3g

安山岩

先端部にわずか加工があるが、
ナイフ形石器か判断できない。



⑤ナイフ形石器?

2.0×1.2×0.7 1.6g

安山岩

ナイフ形石器の基部にも見えるが、判断できない。

**筈倉遺跡 2 地点 緯度経度 33.988666 131.437028**

本遺跡は、山口市秋穂東筈倉に所在する。串山連峰の南にある草山 117mの北面にある洪積台地で、秋穂荘の南方 500mに位置する。草山は、草山公園として整備され桜の名所としても知られる所である。草山から北西に延びる舌状台地の先端部にあり、標高は 10mである。尻川湾に面して、遺跡の北方 100mを県道 25 号線が通る。遺物は国府型ナイフ形石器が 1 点とトロトロ石器 1 点と石鏃が発見されている。国府型ナイフ形石器は、台地の中央部で発見された。それより上位面は、剥片の散在がない場所である。発見された当時は畑地であったが、その後に草山公園として整備され桜が植えられていると思われる。

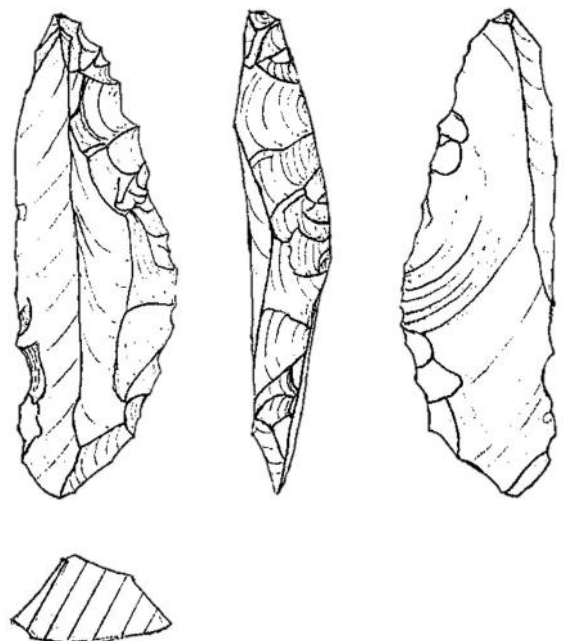
筈倉遺跡は、もう 1 地点存在する。草山公園の入り口付近で、県道 25 号線が反 L 字形に大きく曲がる所にある。標高は 5~10mの洪積台地で、中道湾に面する。縄文時代の遺跡で、緯度経度は 33.989054 131.440115 である。遺跡踏査をして見たがはっきりした地点はわからなかった。遺跡名が重なるので国府型ナイフ形石器が発見された所を 2 地点とする。

①国府型ナイフ形石器

6.2×2.1×1.1

安山岩

実測図が残っていたので、掲載することにしました。
宇部洪積台地で国府型ナイフ形石器が発見されている所は、宇部の南方遺跡と山口市の筈倉遺跡 2 地点の 2 箇所です。翼状剥片は、南方遺跡から 2.5 km離れた常盤池遺跡と筈倉遺跡から 3.1 km離れた青江遺跡（中津原遺跡）で発見されています。比較的近い場所で発見されていることも興味深いです。
現在、遺物があるかはわかりませんが、いずれなくなる可能性の高い遺物です。



実測図 三浦保人

小浜遺跡 1 地点 緯度経度 34.016638 131.477712

本遺跡は、山口市秋穂東小浜に所在する。小浜山 182m の西方山麓にある洪積台地で、大道駅の南方 4.2 km に位置する。大海小学校の南東 1.4 km にあり、遺跡の前には小浜の灯台がある。大海湾に向かい北方に延びる舌状台地の先端部にあり、標高は 10m である。昭和 43 年当時は、畑の畝の痕跡がどうにかわかる位の状態でススキがたくさん生えた荒地であった。現在は、完全な山林になっている。剥片の散在は、その地点だけでなく背後にも認められた。旧石器時代のナイフ形石器 2 点・角錐状石器 1 点・搔器 1 点・細石刃 1 点の他に石鏃 9 点・石斧 2 点が発見されている。小浜遺跡は、もう一つ存在する。小浜遺跡 1 地点の西方の砂堆で、縄文時代後期の土器が発見されている。遺跡名が重なるので、砂堆の地点を 2 地点とする。

ナイフ KOBAMA

①ナイフ形石器

3.3×2.0×0.9 4.7 g

ガラス質安山岩

基部加工のナイフ形石器である。

調整剥離は、粗い。

ガラス質安山岩特有の斑晶による穴あきが複数みられる。



②上記の他、水晶製の二側縁加工のナイフ形石器が 1 点発見されています。荒地に続く背後の畑地で発見されたものですが、遺物はなくなっていると思われます。

角錐状石器 KOBAMA

①周辺加工の尖頭器

3.7×1.5×0.8 4.4 g

安山岩

長い間ナイフ形石器とっていましたが、この度見直すと、周辺加工の尖頭器の思いが強くなりました。

先頭部は、少し曲がっていますが、曲がるタイプは良くあるので問題ないと思われます。全周に加工が施されています。最先端に新しい割れが少しあります。左側縁の調整剥離は急角度で、右側縁はそれに対して浅い剥離です。基部は、左側縁に大きな挟み込みがあり右側縁とは非対称である。柄の固定に関するものと思われる。有茎の周辺加工の尖頭器の可能性がります。



①搔器

3.6×3.4×1.6 18.2 g

ガラス質安山岩

長い間何の石器か想像できなかったが、搔器ではないか思われる。

本品の刃部は円弧状の基本から少し外れた形をしているが機能的には

問題ないと考えられる。刃部最先端部の剥離が大きいのは、

幸崎遺跡 2B 地区の搔器にも認められる。

裏面には、円礫の原石面を残している。



細石刃・剥片 KOBAMA



①細石刃

1.4×0.4×0.2 0.1 g

黒曜石



②剥片

1.9×1.3×0.5 1.3 g

黒曜石



③剥片

2.1×0.8×0.4 0.5 g

安山岩

【説】①は、細身の細石刃である。②は、ナイフ形石器などを作る素材剥片である。③は、細石刃とも考えられるが安山岩の細石核が存在するのかが問題があるので現在は保留として置きたい。

青江遺跡（中津原遺跡） 緯度経度 34.014726 131.444222

本遺跡は、山口市秋穂東西青江中津原に所在する。経納山（標高 145m）の南方山麓の洪積台地で、中道海水浴場の北方 2.3 km に位置する。秋穂中学校の東方 300m にある台地で、現在は老人ホームが建っている。遺跡の南方 200m を県道 25 号線が通り、中道海水浴場方面に向かう曲がり角から北に見える台地で、背後には溜池がある。旧青江湾に向かって南方に延びる舌状台地の先端部にあり、標高は 10m である。老人ホームが建つ前に、発掘が実施され翼状剥片が 1 点発見された。中津原遺跡として報告書が出ていると思われる。旧石器の遺物の他に石鏃やスクレーパーが発見されている。

ナイフ AOE

①ナイフ形石器

4.3×1.3×1.1 4.8 g

ガラス質安山岩

右側縁に交互剥離が認められる、二側縁加工のナイフ形石器である。最先端に、新しい割れがわずかある。石材の風化が著しい。

石材の風化の感じから、ガラス質安山岩と思われませんが、新しい割れの色がかなり黒いのが気になります。ガラス質安山岩は、少し青みがあります。



②ナイフ形石器

2.4×1.5×0.7 3.0 g

安山岩

小型の二側縁加工のナイフ形石器である。

先端部の欠損は、古いものである。

調整剥離は、粗い。

基部の末端に、原石面が残る。



角錐状石器 AOE

①角錐状石器

4.8×1.4×1.5 8.8 g

ガラス質安山岩

二面加工の角錐状石器で、正面下部に

素材面を残している。細身で、先端は尖る。

調整剥離は主に裏面からで、わずかに稜上からも

認められる。調整剥離は粗いが、雑な作りではない。

角錐状石器は、幅に対して甲の低いものが多く、

本品のように甲高ものは数少ない。



②角錐状石器

2.9×1.3×1.0 4.1 g

ガラス質安山岩

小型の角錐状石器である。

調整剥離は、粗く大雑把に見えるが
大きな剥離で整形した後に小さな剥離で
調整されており雑とも思えないところがある。
正面中央に広く素材面を残している。
横剥ぎで、斑晶による陥没が複数みられる。



①細石刃

1.4×0.6×0.2 0.2 g

黒曜石

細石刃が出る場所は限定されていた。

この他、黒曜石製の細石刃屑が5点ある。



昭和44年頃の美濃ヶ浜遺跡の東海岸



石槍・石斧・石錘・土師器・製塩土器などがあつた場所です。特に石錘は、たくさんありました。

山口市四辻の旧石器

山田・東禅寺黒山・河原・尾口山・長沢 C・長沢 D・長沢その他

山田遺跡 緯度経度 34.097287 131.421342

本遺跡は、山口市陶山田に所在する。陶埵の南方山麓にある洪積台地で、新山口駅の東方 2.3 km に位置する。西陶会館の上方の三叉路付近にあり、北方 250m に国指定の陶窯跡がある。司家堤に向かって東方に張り出した台地の先端部にあり、標高 15m である。円形の搔器が 1 点発見されている。付近の台地や山林では、集中地点のない剥片の散在がある。

①搔器

1.8×2.0×0.5 2.4 g

安山岩

片面調整の小型円形搔器である。



東禅寺・黒山遺跡 緯度経度 34.081443 131.458277

本遺跡は、山口市鑄銭司黒山に所在する。黒山の南方山麓にある沖積低地で、四辻駅の東方 1 km に位置する。今宿西から天神原・鷹ノ子方面に向かうと黒山の突き当りの曲がり角にある田んぼで、標高は 15m である。現在は、工場が建ちなくなった。縄文時代草創期の有舌尖頭器 1 点と他に石鏃などが発見されている。沖積低地は、氾濫原で有舌尖頭器は 2 次散布したものである。

①有舌尖頭器

5.0×2.4×0.6

安山岩

先端部は、ゆるやかなカーブを描き基部が三角形の有舌尖頭器である。左側縁の中央部に、斑晶の影響によるアクシデントな剥離が見られる。調整剥離は、右側縁の剥離の影響が大きいため左側縁を加工して、その後に右側縁を調整している。大きさは石鏃より長く、幅も石鏃の最大値に近い。左右のバランスが良い。



河原遺跡 緯度経度 34.077942 131.462687 (杉原遺跡)

本遺跡は、山口市鑄銭司河原に所在する。華北山 261mの西方山麓にある洪積台地で、四辻駅の東方 1.4 kmに位置する。河原部落の東域で、吉南病院の北方 200mにある。長沢池や鷹ノ子方面の池を水源とした南若川の支流が台地の南北を流れる。四辻方面に向かって西方に延びる舌状台地にあり、標高は 25mである。旧石器時代のナイフ形石器・細石刃各 1 点の他に石鏃などが発見されている。ナイフ形石器は、ガラス質安山岩製の切り出し型ナイフ形石器で 4 cm位あったと思われる。幸崎遺跡 2A 地区のナイフ形石器②に似たものである。

剥片 KOURA

①剥片

6.1×4.4×0.9 21.7 g

ガラス質安山岩

幅広の縦剥ぎ剥片である。



②剥片

7.0×1.9×1.5 16.2 g

ガラス質安山岩

細身の縦剥ぎ剥片である。



細石刃 KOURA

①細石刃

1.6×0.7×0.2 0.2 g

黒曜石



尾口山遺跡 緯度経度 34.085637 131.460359 (黒山裏遺跡・和西遺跡)

本遺跡は、山口市鑄銭司天神原に所在する。黒山の北方山麓にある洪積台地で、四辻駅の北東 1.3 km に位置する。高尾山 121m の西方山麓にある壺釜遺跡の対面にある遺跡で、その間を南若川の支流が流れる。高尾山に向かって東方に延びる舌状台地の先端部にあり、標高は 25m である。道路や工場が出来てなくなった。旧石器時代の遺物の他に、トトロ石器 1 点や石鏃などが発見されている。

ナイフ OGUTIYAMA

①ナイフ形石器

3.3×1.9×0.7 4.7 g

安山岩

二側縁加工のナイフ形石器である。
サヌカイト質の良質安山岩であるが、
表面はひどく風化している。



剥片 OGUTIYAMA

②剥片

2.5×1.9×0.7 3.9 g

硬質頁岩

縦剥ぎ剥片である。



長沢池遺跡C地区 緯度経度 34.073145 131.462574

本遺跡は、山口市鑄銭司今宿長沢池に所在する。福西山 253m の北方山麓にある洪積台地で、四辻駅の南東 1.6 km に位置する。長沢池のレークゴルフ長沢がある所で、側を国道 2 号線が通る。長沢池に向かって北方に延びる細長い舌状台地の先端部にあり、標高は 20m である。旧石器時代の遺物の他に、縄文時代中期や後期の遺物が発見されている。

①ナイフ形石器

2.8×1.0×0.4 1.2 g

安山岩

二側縁加工の小型ナイフ形石器である。
正面右上半部は刃部で、使用痕の不規則な割れが表裏に
認められる。右側縁下半部は、一つ一つの剥離が良くわかる
丁寧な調整剥離である。左側縁は、平滑な調整剥離である。



※柄を付けたナイフ形石器のイミテーション

柿の木のほぞ穴の調整加工に使用した時の

刃こぼれが表裏に認められる。

上記のナイフ形石器も同様の刃こぼれが認められる。



長沢池遺跡D地区 緯度経度 34.074687 131.461828

本遺跡は、山口市鑄銭司今宿長沢池に所在する。華北山 261mの西方山麓にある洪積台地で、四辻駅の東方 1.4 kmに位置する。長沢池の弁天社がある所で、近くには吉南病院や大村神社がある。長沢池に向かって南方に延びる舌状台地の先端部にあり、標高は 20mである。旧石器時代の搔器 1 点の他に石鏃・石斧・スクレーパー・土錘などが発見されている。

搔器 NAGASAWAIKE D

①搔器

4.1×2.8×0.7 10.2 g

安山岩

縦剥ぎ剥片を素材としている。

右側縁は、原石面である。

円弧状の刃部で、剥離は先端部のみである。

刃部の角度は 50° 位です。



昭和 34 年 9 月 19 日に高橋慎二氏が発見したもので、山口県の旧石器では最初に発見された記念すべき石器である。

スクレーパー NAGASAWAIKE D

①スクレーパー？

1.7×3.4×1.2 10.6 g

チャート

正面の下部に剥離が三つ認められる。

調整剥離なのか、判断できない。



剥片 NAGASAWAIKE D

①剥片

3.3×3.1×1.0 7.5 g

硬質頁岩

縦剥ぎ剥片である。



②剥片

2.0×4.2×0.6 5.2g

※1 赤色珪岩



③剥片

2.1×3.4×0.6 4.9g

赤色珪岩



④剥片

2.9×2.6×0.7 6.5g

赤色珪岩



【注】

※1 上記3点は、赤間石と思っていましたが、沖野誠氏より愛媛県の神南山の赤色珪岩に似ていると指摘がありました。赤を基調として白が混ざるのが特徴です。その他には、岩上遺跡に2点（ナイフ形石器1点・剥片1点）があります。

長沢池遺跡その他

①盤状石核 E地区

4.0×4.3×1.7 29.2g

頁岩

円盤状の剥片石核である。剥離方法は、両極打法や横剥ぎの剥離方法が応用されている。

すべての剥離面が剥片の主要剥離面ではなく、加撃の際に生じた支点の潰れが多い。



①スクレパー A地区

5.3×2.0×0.5

安山岩



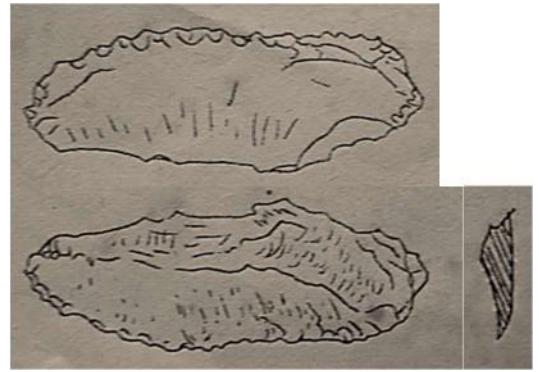
薄い横剥ぎ剥片を素材としている。

加工は、主に裏面である。

正面右下部にも細かな調整剥離がわずかに認められる。

池岸の土中につきささったまま採集したものであると

「長沢池遺跡」の本に書かれています。



実測図 高橋慎二

ナイフ NAGASAWAIKE B

①ナイフ形石器 B地区

2.9×1.8×0.6 3.7 g

チャート

縦剥ぎ剥片である。先端部は、欠損している。

裏面は、バルバースカーとバルブの高まりで外湾している。

正面も裏面と同方向の剥離であるが、内湾している。

その影響で、調整剥離も正面から行われている。

ナイフ形石器の裏面からの剥離の原則は、正面からよりも

剥離し易いに他ならず、このような例があると寛容さが良くわかる。

石材の表面には、凹凸やヒビ割れがあるので珪化木の可能性もある。



ナイフ NAGASAWAIKE 地点不明

①ナイフ形石器 地点不明

2.6×1.7×0.6 2.8 g

チャート

横剥ぎ剥片を素材としている。

右側縁の剥離は、石核から剥片を剥離する際に生じた打撃痕と

思われる、正面の割れと側面の割れが同一に生じたもので、

加工されたものではない。

左側縁には、細かな調整剥離がある。

省略タイプの部分加工のナイフ形石器である。

刃部には、使用痕が認められる。

半透明な部分のあるチャートである。



剥片 NAGASAWAIKE 地点不明

①剥片 地点不明

5.1×1.9×0.8 7.9 g

安山岩

良質の安山岩である。サヌカイトに近い。



加工のある剥片 NAGASAWAIKE F

①加工のある剥片 F 地区

3.1×1.3×0.9 4.0 g

黒曜石

甲板面から粗い調整剥離がある。

末端部は欠損している。

角錐状石器か石核の破片かもしれない。

現末端部に残る原石面を見ると、黒曜石と思われる。

長沢池遺跡 F 地区は、現在の長沢温泉がある所である。

遺物は池岸でなく、主に畑地で採集されたものである。



長沢池 地点不明 細石刃



①2.5×1.0×0.2 0.6 g

黒曜石



②1.3×0.7×0.2 0.2 g

黒曜石



③1.3×0.9×0.2 0.2 g

黒曜石



④1.2×0.8×0.2 0.2 g

黒曜石

【説】その他に、細石刃屑が 3 点ある。採集場所がわからないのは残念です。「長沢池遺跡」の本から、これらの遺物が長沢池遺跡で採集されたことは、ほぼ間違いありません。細石刃の出土には、集中傾向があるので長沢池遺跡の一地点と思われます。もし、D 地区のたくさんの剥片があったら証明できるかもしれません。ここで、初めて剥片が役に立ちます。最近では、やたら剥片があったらと思うことが多くなりました。剥片にもたくさんの情報が隠されていて、捨てたものではありません。

防府市の旧石器

宮ノ前・木床・柴山裏・上り熊・姫山・湯ノ峠下・丸山・和田

宮ノ前遺跡 緯度経度 34.062920 131.467702 (大原遺跡・大原宮ノ前遺跡)

本遺跡は、防府市台道大原開拓山に所在する。大海山 324mの北方山麓にある洪積台地で、大道駅の北西 2.1 kmに位置する。長沢池の南方 900mにあり、側を山陽本線が通る。河内川に向かって北東に延びる舌状台地の先端部あり、標高は 25mである。以前は、前の鳥居からお宮までの参道が開けて赤土が露出していたが、今は山林になっている。遺物の多くは旧石器時代のもので、わずかに石鏃などが発見されている。

ナイフ MIYANOMAE

①ナイフ形石器

3.3×1.4×0.7 2.7 g

安山岩

一側縁加工のナイフ形石器である。

右側縁下半部の加工は、正面からの大きな剥離で、

上半部は、裏面からの調整剥離である。

先端部は、欠損していると思われる。

少し変な形と思われるかもしれませんが、

柄を付けたようなナイフ形石器はあります。



②ナイフ形石器

2.0×1.1×0.4 0.9 g

煙水晶

小型のナイフ形石器である。

基部は丸くて、先端部は尖る。加工は、浅い調整剥離で

細かく丁寧である。正面は、結晶面である。



③ナイフ形石器

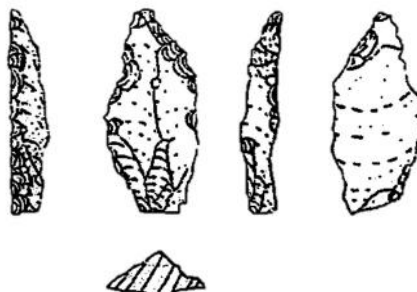
2.6×1.2×0.5

ガラス質安山岩

右側縁の先端部と左側縁の基部に、細かな調整剥離が

認められる。左側縁先端部の剥離は不自然で、使用痕

かもしれない。部分加工の小型ナイフ形石器である。



④ナイフ形石器

1.3×0.7×0.4

水晶

先端部と基部が欠損している。

小型のナイフ形石器である。



⑤ナイフ形石器？

1.7×0.5×0.2 0.2g

水晶

末端部のわずかを除き、全周に加工が認められる調整剥離は細かく丁寧である。

先端は尖り、超極細の石器である。

刃部がないのでナイフ形石器が極小化したものかわかりません。



拡大



⑥ナイフ形石器より台形様石器では

2.3×1.9×0.7 2.0g

安山岩

右側縁の加工は、抉入した刃潰しである。

左側縁には、加工はない。刃部の角度が不自然なので、台形様石器の可能性が高い。

遺跡名のサイン O-K が気になります。古い報告書にも掲載されていたので問題ないことにします。

最良の読み方は大原開拓山で、宮ノ前遺跡の地名です。遺跡名が書かれた遺物が何点かありますが大道大原・大道大原宮ノ前・大原と書かれています。



①尖頭器

2.4×1.0×0.5 1.4g

煙水晶

縦剥ぎ剥片を素材としている。

右側縁は、剥離が稜上まで届いているが、左側縁は、縁辺調整である。

周辺加工の小型尖頭器と思われます。



拡大



②鏃状石器

2.2×1.0×0.3 0.8g

水晶

正面の側縁部に、細かい剥離が認められる。

石鏃に似ているが裏面に加工がない。



拡大



①搔器

2.1×1.6×0.4 2.2 g

煙水晶

縁部調整の円形に近い搔器である。

加工は、細かく丁寧な調整剥離である。



②搔器か細石核

2.3×1.5×0.9 4.2 g

水晶

細石刃？

1.8×0.8×0.3 0.6 g

水晶



加工が正面末端部に集約されており、縁部調整は槌状剥離である。

右側面に結晶面が残る。見方によれば、細石核にも見えるが、現状の作業面ではまともな細石刃は取れていない。

剥片を見ると縦長のものが多く細石刃に似たものもある。

③搔器？

3.0×1.9×0.8 5.1 g

水晶

正面末端部に細かな調整剥離がある。

その上部に結晶面が残る。



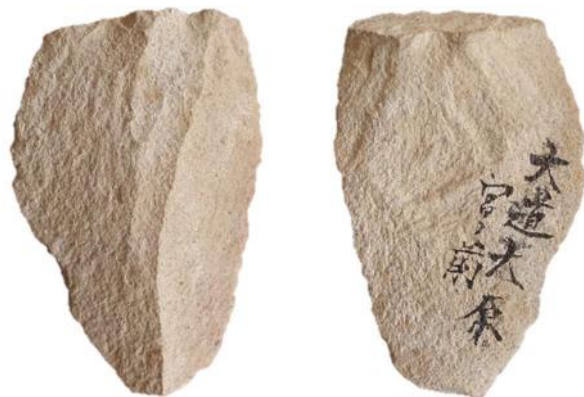
①剥片

5.0×3.3×0.9 14.5 g

不明

縦剥ぎ剥片で、裏面に大きなバルバースカーが残る。

石材名は、わかりませんが砂岩質のように見えます。



②剥片

4.2×2.8×0.7 8.3g

頁岩

縦剥ぎ剥片である。

風化が進んでいる。



③剥片

2.9×1.5×0.7 2.8g

ガラス質安山岩

縦剥ぎ剥片で、正面右側面に原石面がある。

ガラス質安山岩か姫島産黒曜石が軽石になる

途中のような石である。その他では、ガラス質安山岩が

火で焼かれ軽石化する手前のものかもしれない。縁辺は、鋭い。



④剥片

2.5×1.2×0.4 1.5g

煙水晶

縦剥ぎ剥片である。

煙水晶が薄く剥がれ、黄色味を帯びて見える。



⑤剥片

2.0×1.1×0.4 1.0g

水晶

末端部は、欠損している。

表裏は、同じ方向の剥離なので、

小石刃かもしれない。



①剥片石核

2.7×2.8×1.6 10.0g

ガラス質安山岩

石核の作業面は、正面と背面で

剥離方向は違う。



②剥片石核

3.1×3.6×3.8 42.6 g

ガラス質安山岩

主要剥離面は、正面のみで

裏面は原石面（角礫）である。



宮ノ前遺跡の使用石材の種類

石材	水晶	ガラス質安山岩	頁岩	安山岩	チャート	黒色黒曜石	その他	計
数量	51	8	4	3	3	1	1	71
%	71.8	11.3	5.6	4.2	4.2	1.4	1.4	

石片数を単純に数量で比較すると水晶が最も多く利用されている。また、石材の種類が多い。その様な傾向は、宇部台地の旧石器時代の一般的に言えることである。

木床遺跡 緯度経度 34.057298 131.472106

本遺跡は、防府市台道下津令木床に所在する。大海山の北東山麓にある洪積台地で、大道駅の西方 1.6 km に位置する。木床部落の入り口側の畑で、長沢池の南方 1.4 km にある。河内川に向かって北東に延びる舌状台地の先端部あり、標高は 15m である。開発によりなくなった。旧石器時代の遺物の他に、古墳時代の須恵器が発見されている。剥片もあったので、縄文時代もあったと思われる。大道地区では、古墳時代の須恵器とはっきりわかるものは、その他に小俣遺跡だけで数少ない遺跡である。発掘では、台地の背後の丘陵で古墳時代の住居跡が発見された。

①ナイフ形石器

1.7×0.8×0.3 0.4 g

黒曜石

先端部は打点面で、完形品である。打点面を除き全周に細かな加工が認められる。

ナイフ形石器が究極に小型化したものである。



柴山裏遺跡 緯度経度①34.048587 131.481268 ②34.050507 131.480845

本遺跡は、防府市台道岡条柴山に所在する。大海山の東方先端部にある柴山 83mの西方山麓にある洪積台地で、大道駅の南西 800mに位置する。旧山口秋穂道が通る柴山峠にあり、前方を河内川の支流が流れる。大内輝弘の乱で最後に戦った場所で、毛利軍が柴山峠で待ち受けていた場所でもある。柴山裏遺跡は、3地点存在するが南方の岡条寄りの①②地点で旧石器の遺物が発見されている。①地点の北方 200mに②地点がある。下津令に向かい西方に延びる枝状台地の先端部あり、標高は①15m②10mである。以前は、地点を区別していなかったため、採集地点がわからない遺物があります。遺跡は、2地点が主体なので旧石器の多くはそこで採集されたものと思われます。旧石器時代の遺物の他に、石鏃・スクレーパーなどが発見されている。

ナイフ SIBAYAMAURA

①ナイフ形石器 2地点

4.0×1.3×0.8 3.8g

ガラス質安山岩

二側縁加工のナイフ形石器である。

正面の平坦部は、原石面と思われる。

加工は、大きな剥離の後に細かな調整

剥離を行っている。先端の裏面には、

先端方向からの割れがある。



②ナイフ形石器か周辺加工の尖頭器

3.7×1.4×0.7 3.5g

安山岩

横剥ぎ剥片を素材としている。

刃部と思われる先端部は、新しい割れである。

見かけは、刃部の小さいタイプのナイフ形石器に

見えるが、大事なところが割れているので判断が難しい。

欠損部を除き全周に加工が認められる。刃部と思われる所まで加工があるので、周辺加工の尖頭器の可能性もある。刃部の小さいタイプのナイフ形石器も、機能的には切る刃部機能が低下しているので、突き刺す機能さえあれば周辺加工の尖頭器と余り変わるところはない。結局は、尖頭器の機能をもったナイフ形石器か尖頭器になる。



③ナイフ形石器？

4.0×1.5×0.6 4.0g

水晶

縦剥ぎ剥片である。

全周に及ぶ粗い割れは、加工とは思えない。

正面は、水晶の結晶面です。



①ナイフ形石器 2地点

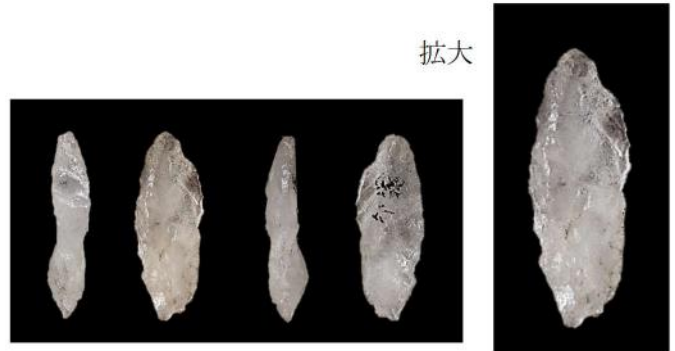
2.5×0.9×0.5 1.2g

水晶

縦剥ぎ剥片を素材としている。

左側縁基部を除き、全周に剥離が認められる。

刃部の剥離が、加工か使用痕か判断できない。



拡大

②ナイフ形石器? 1地点

2.3×0.8×0.4 0.7g

ガラス質安山岩

全周に加工が認められるである。

先端は尖り、超極細の石器である。

刃部がないのでナイフ形石器が極小化したものかわかりません。宮ノ前遺跡にも類例がある。



③ナイフ形石器

2.6×1.5×0.3 1.2g

チャート

縦剥ぎ剥片を素材とした部分加工の

小型のナイフ形石器である。

ほぼ半透明のチャートである。



①細石核 1地点

1.8×1.3×0.8 2.2g

黒曜石

最初は、打面調整のある裏面で細石刃を剥離していたが、打面が悪くなったので反対側に転移したものと思われる。

転移した現在みられる剥離面には、打面調整はない。

石材は、チャートに見える意見が多いですが違うと思います。私も最初は、確かにチャートと思いました。このような色のチャートはあります。裏面（打面）の一部に原石面が残っています。明らかにチャートとは違うと思います。私は、針尾の小鯛産か椎葉川産ではないか思っています。根拠は、姫島産黒曜石に良く似ているからです。姫島産黒曜石に似ている石材は、他にないそうです。細石核の石材は、チャートに比べて圧倒的に黒曜石が多いこともチャートを否定する条件の一つと思われる。



原石面



細石核 SIBAYAMAURA

①石鋸？

3.2×1.6×0.8 4.2 g

黒曜石

正面下部側縁の調整剥離は、左の先端から
5mm・7mm・13mmと順次大きな剥離幅になっている。

剥離面の切り合い部分に調整剥離を施している。

刃が石鋸に似ている。

上部側縁にも、わずか加工がある。



剥片 SIBAYAMAURA

①剥片

4.2×2.5×0.7 6.0 g

安山岩

縦剥ぎ剥片である。

打面に原石面がある。



②剥片

4.3×3.2×1.3 16.5 g

チャート

縦剥ぎ剥片である。



③剥片

2.1×2.2×0.6 3.0 g

黒曜石

縦剥ぎ剥片である。



石器の未製品 SIBAYAMAURA

①石器の未製品

2.3×1.9×0.5 2.0 g

安山岩

左側縁は、打面で加工はない。

右側縁下半に細かな浅い調整剥離が認められる。

何の石器か想像できないが、形が三角形なので

石鋸の未製品の可能性はわずかあります。





柴山裏遺跡 2 地点の写真

上り熊遺跡 緯度経度 34.057685 131.483135

本遺跡は、防府市台道上り熊峠に所在する。華北山の南方山麓に広がる洪積台地で、大道駅の北西 700m に位置する。台道平野に向って緩やかに延びる丘陵の先端部にあり、標高 10m 比高 5 m である。側を山陽本線が通っている。平成 19 年度に県の発掘が行なわれて、室町～江戸時代の集落跡や縄文時代の遺物が発見された。旧石器時代の遺物の他に、石匙・石鏃などが採集されている。

①ナイフ形石器

2.9×1.1×0.5 1.5 g

黒曜石

縦剥ぎ剥片を素材とした二側縁加工の小型ナイフ形石器である。

調整剥離は、細かく丁寧である。刃部には使用痕がある。

裏面の基部には、打瘤調整がある。



姫山遺跡 緯度経度 34.064500 131.540520

本遺跡は、防府市大崎日ノ本に所在する。姫山北西山麓にある洪積台地で、防府駅の北西 2.9 km に位置する。玉泉ダムを水源とした佐波川支流と県道 348 号線が交わる付近の台地で、山口県立総合医療センターの南西 250m にある。現在は、家が建ちなくなった。江良に向かって西方に延びる舌状台地の先端部あり、標高は 15m である。遺物は、ナイフ形石器 2 点・搔器 1 点の他に石鏃などが発見されている。

①ナイフ形石器

1.7×0.7×0.3 0.5 g

チャート

縦剥ぎ剥片を素材とした

一側縁加工の小型ナイフ形石器である。先端部は、欠損している。

見かけは、稜線の入り具合と一つの剥離で二側縁加工のナイフ形石器に見える。



②この他に、水晶製の切り出し型ナイフ形石器が発見されています。

湯ノ峠下遺跡 緯度経度 34.008192 131.520730

本遺跡は、防府市田島中浦湯ノ峠下に所在する。田島山 222mの南西山麓にある洪積台地で、防府駅の南西 6.7 kmに位置する。エヒメアヤメ自生地南東 600mにあり、湯ノ峠の中浦側登り口で海に面した小さな台地である。県道 58 号に繋がる道路が通り、遺跡の先端部が削られている。中浦湾に向かい南東に延びる舌状台地の先端部あり、標高は 5mである。遺物は、ナイフ形石器 1 点と石鏃 1 点が発見されている。

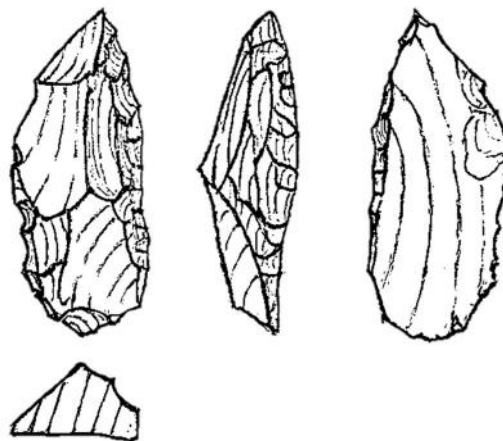
①ナイフ形石器

4.2×1.7×1.3

ガラス質安山岩

実測図に場所が記入してなかったが、私は、一度見たことがあり記憶と一致する。ガラス質安山岩であるが、石材に特徴がある。青みがあり、風化は進んでいないが、表面に線状の傷がたくさんあるようなものと記憶しています。剥片を探して見ましたが、姫島産黒曜石と安山岩と黒色黒曜石しか見つかりませんでした。

このことにこだわるのは、石材を直接取りに行った可能性があるからです。



丸山遺跡 緯度経度 34.010963 131.569068

本遺跡は、防府市向島丸山に所在する。錦山 354mの北西山麓にある洪積台地で、防府駅の南方 4.7 kmに位置する。向島は、タヌキの生息地で知られ国の天然記念物になっている。向島は、錦橋で本土と繋がりその橋より遺跡は南西 1.5 kmにあり、中関港に面する。中関港に向かい北西に延びる舌状台地の先端部の緩やかな斜面上にあり、標高は 10～15mである。遺物は、ナイフ形石器 2 点の他に縄文時代の遺物が発見されている。湯ノ峠下・丸山遺跡は、佐波川以東にある数少ない旧石器時代の遺跡である。

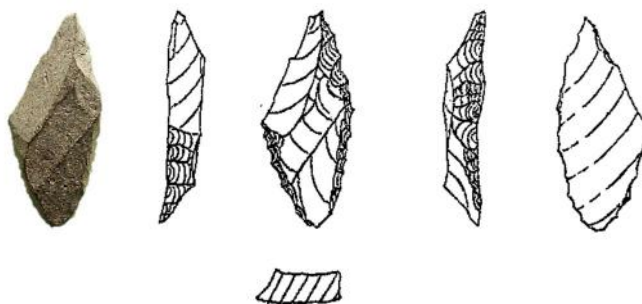
①ナイフ形石器

2.9×1.2×0.4 1.5 g

安山岩

縦長剥片を素材とした、二側縁加工の小型ナイフ形石器である。

調整剥離は、細かく丁寧である。

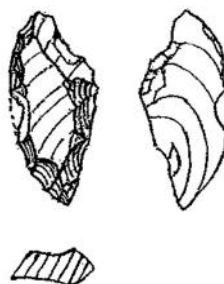


②ナイフ形石器

2.6×1.1×0.5

安山岩

縦割ぎ剥片を素材とした、二側縁加工の小型ナイフ形石器である。



和田遺跡 緯度経度 34.101774 131.583279

本遺跡は、防府市上右田和田峪(かけ)に所在する。八幡岳 352mの南東山麓にある丘陵で、防府駅の北方 5.6 kmに位置する。和田のみずほ養鶏場の北東 500mで、佐波川に面する。佐波川に向かい南東に延びる丘陵上で、標高 50mである。遺物は、台形様石器が 1 点発見されている。標高が高く低位浸食平坦面に立地していると考えられる。その様な遺跡は、山陽小野田市にも見られる。長沢考古グループ・防府考古学研究会は、宇部洪積台地を中心に旧石器の遺物を探したが、その背後の低位浸食平坦面にも遺跡が考えられる。低位浸食平坦の溜池や堤を探すことが次の時代への課題と考えれる。

①台形様石器

2.0×2.6×0.5 1.8g

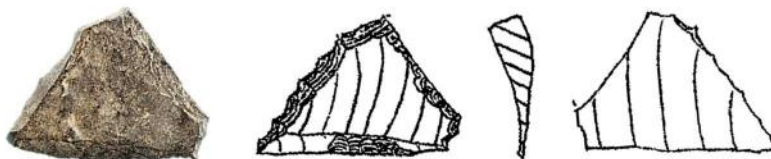
黒曜石

左側縁に刃潰し加工が認められる。

右側縁に細かな浅い加工が認められるので、

欠損は考えられない。刃部には、使用痕がある。

正面と裏面の剥離方向が同じなので、石刃状剥片に近い素材を利用している。台形様石器の可能性が高い。

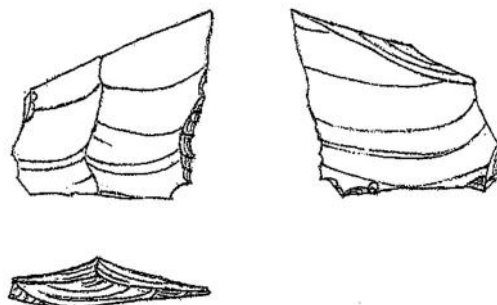


①剥片

2.5×2.4×0.6

黒曜石

縦剥ぎ剥片である。



宮ノ前遺跡の写真 遺跡名由来のお宮

お宮の手前の参道が遺跡でしたが、現在は林になっています。



終わりに

※宇部洪積台地の国府型ナイフ形石器

①国府型ナイフ形石器 南方遺跡

4.5×2.6×1.2 16.7 g

石材不明

その他に、同じ石材の

ナイフ形石器と剥片尖頭器が
各1点採集されている。

これらの石器は、舌状台地の
南最先端部の限られた場所で
採集されたものである。

この石材は、これらの石器以外に
剥片もない。

右半分は欠損しているので、全体の
形は想像であるが調整剥離は直線状で、
刃部は緩やかな円弧状と思われる。



②国府型ナイフ形石器 南方遺跡

4.4×1.7×0.9 5.7 g

安山岩

翼状石核の底面にあたる刃部が
平坦で、安定が良い。

正面左の1次剥離面は、刃部にまで
及んでいる。

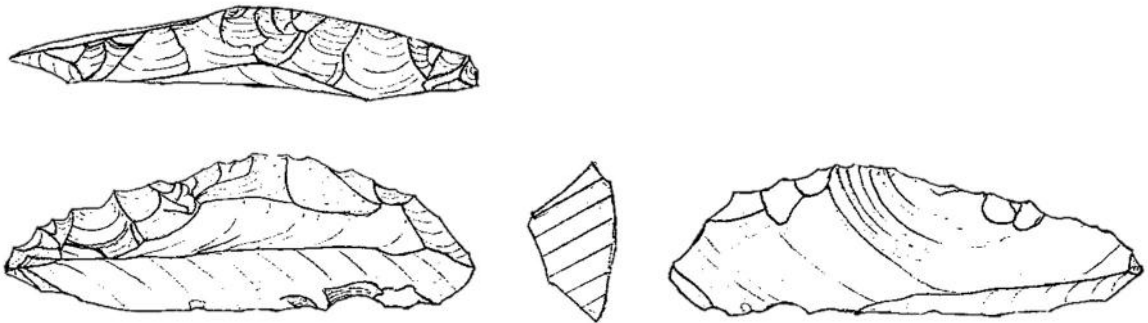
正面左上部は、欠損している。



③国府型ナイフ形石器 笹倉遺跡2地点

6.2×2.1×1.1

安山岩



山口市秋穂・四辻と防府市の旧石器

令和3年(2021)10月31日発行

防府考古学研究会 三浦文夫